第３回黒部市都市計画マスタープラン及び黒部市立地適正化計画検討委員会
日時：令和６年７月 16 日（月）　午前 10 時 00 分～
会場：黒部市役所２階　201～203 会議室

１　開会
２　委員長挨拶
３　報告事項　　報告第１号　都市計画マスタープラン見直しスケジュールの変更について

＜事務局説明＞

（委員長）　ただ今の報告事項について、ご意見、ご質問はあるか。

（委員）　県の立場で補足させていただくと、今ほどご説明があったように、市の都市計画マスタープランは、県の都市計画区域マスタープランと整合するというか、即して作成していただくという立て付けになっている。
　県では、昨年度末に区域マスタープランを都市計画決定する予定で、法手続に半年ほどかかるので、去年の秋ぐらいから準備を進めてきた。その途中で能登半島地震があった。
　マスタープランは、ここの道路を拡幅するとか、個別の事業を示すものではないが、現行の区域マスタープランには、13 年前の東日本大震災などの記載が残ったままで、直近で能登半島地震があったにもかかわらず、そのままでいいのかという意見が主に西部の市からあり、他にも液状化の観点やまちづくり、あるいは防災計画も見直しが予定されているということで、立ち止まった形になっている。
　今、市とも調整しながら、修正の素案を作っているところだが、県では地域防災計画も見直ししており、今年度末ぐらいの策定に向けて、おおよその骨子が秋口にできるということで、その内容を見て県のマスタープランも見直しをしようとしているところなので、結果的に１年ほど遅れた形になってしまっていることをご報告しておく。

（委員長）　補足のご説明をいただいた。他にご意見等はないか。

（委員）　日程なのだが、分かる範囲で日が決まっていれば連絡が欲しい。10 月中旬に第４回の検討委員会が予定されているが、できるだけ早めに決めていただきたい。

（委員長）　今の時点で事務局の方から何か説明はあるか。

（事務局）　日程については調整中なので、なるべく早めに調整してご案内したい。

（委員長）　他にご質問やご意見はないか。なければ、これで報告事項は終了とさせていただく。

４　協議事項　　協議第５号　都市計画マスタープラン（地域別構想）の見直しについて

＜事務局説明＞

（委員長）　ただ今の事務局からの説明について、ご意見やご質問があればお願いする。

（委員）　前半の説明で、「適切な土地利用」という言葉が結構出てきたのだが、何を基準に適切な土地利用という位置付けになるのか。

（委員長）　関連して、他に意見がある方はいらっしゃるか。ないようであれば、一旦、事務局から回答いただけるか。

（事務局）　今ほどのご質問の「適切な土地利用」とは何かということで、例えば３ページの右側上段の「道の駅 KOKO くろべ」周辺での適切な土地利用等についてのご指摘かと思うが、市では、立地適正化計画を策定し、中心市街地に住宅や商業・文化機能を集約しようとしている。

一方で、例えば道の駅 KOKO くろべ周辺では、商業施設や住宅が立地しつつある。それを決して否定するものではないが、中心市街地である三日市地区を上回るような商業施設や住宅が出てくるような場合には、規制なども必要になってくるということも踏まえた「適切な土地利用」というような意味合いのものである。

（委員）　理解はしたが、中心市街地を超えるようなというところでは、現在、中心街といわれる三日市の商店街通りの周辺地域であれば、まだ開発しやすい土地がたくさんある。ただ、三日市の中心市街地と言われるところは、なかなか住居に変わって再開発的なことはしづらい場所になっている。そういったところも改善を前提にコントロールしていくということか。

（事務局）　そういったことも含めてということだが、確かに中心市街地で再開発というのはなかなか難しい部分がある。一方で、三日市地区は、この都市マスでも触れているように、空き家などが非常に多くなっているので、そういったものをしっかりと利活用しながら、居住の誘導を図っていくことも取組として必要かと考えている。

（委員）　一定の理解はした。

（委員長）　第２回検討委員会の発言内容でも、何度か「適切な土地利用に努めます」という部分に関しやりとりがあった。また、都市計画審議会でも、私から「適切な土地利用に努めます」ということの意味・中身がそれぞれの場所で違うことを確認したいということを質問させていただいて、何度かやりとりはしているのだが、全てのところで「適切な土地利用」がその都度判断される余地を残している書き方になっていると思っている。

１点だけ関連して、今まさにご指摘いただいた５ページの「（４）まちづくりの方針」の「１）

土地利用の適正な誘導による農業振興」の、「一方、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られる市街地に近い地区については、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努めます」というのは、農業振興を重視した適切な土地利用なのか。

（事務局）　委員長からご指摘の部分については、地区でいうと大布施地区、道路でいうと都市計画道路新駅中新線が一部４車線化している辺りのことをイメージしている。あの辺りは、商業施設や住宅団地の開発が進みつつあり、ああいった場所も、今ほどご説明したとおり、やはり中心市街地を上回るような土地利用がなされるようであれば、規制なども視野に入れなくてはいけないのかなということで「適切な土地利用」と記載している。決して、商業施設や住宅が立地している現状を否定するものではない。あくまで、中心市街地を上回るようなものが出てくるようであれば、適切な対応が必要と考えているところである。

（委員長）　４ページの終わりも同じで、「（２）地域の問題点・課題」の「１）土地利用」のところでも、「一方、・・・今後の開発動向を踏まえた柔軟な対応が必要となっています」という書き方をしてある。特に市街地に近い縁辺部に関しては、柔軟な対応をしない方がいいという考え方だと思うので、４ページと５ページについては、少し考えていただけたらと思う。皆さんからの意見も、同じようなことで何度か繰り返しがあったと思う。これに関連して、何かご意見はあるか。

（委員）　３ページは全体的に沿岸地区の開発についてで、左側の下「生地駅周辺では、地元振興会などが民間企業と連携し・・・」というのはこれでいいと思うが、今、沿岸地区が抱えている問題は何かというと、道路が狭くて車が入れないような状況だということだ。例えば生地地区は、雪が降るともう出られない。石田地区にも同じような問題があると思う。なので、沿岸地区については、基本から地区の在り方を考え直す必要があるのではないかと思う。そうでないと、若い人たちが生地・石田地区に住もうとしないのではないか。交通の便が悪くて車が入れないと、若い人は住まない。

３ページ、右側の下にある「海岸部を南北に連絡する湾岸道路の整備」を基にして、海岸地区の、特に居住地区については、しっかりと見直すべきではないかと思う。大変失礼かもしれないが、石田・生地地区は、このままではなくなるのではないかというような心配もあるので、具体的にどうするということも含めて、この辺りについては、きっちりと検討された方がよいのではないかと思う。

（委員長）　今、地域別構想の、特に「６－２海岸部」２についてのご意見があったが、他にこの「６－２海岸部」に関するご意見はあるか。

（委員）　私は石田地区に住んでいるのだが、あいの風黒部駅の東西のバリアフリー化などの改修計画があるということをうたってあって、海岸部の観光レクリエーション施設の拠点は、黒部に置くと記載されている。それは黒部が中心でいいので、それにプラスして、あいの風の黒部駅、

それから地鉄の石田駅など、駅施設を結んだ回遊性というか流動性を持たせるということも記載していただくと非常に良い。生地までいくとちょっと距離が遠いが、石田地区を中心とした回遊性を持たせるのがよいのではないかと思った。

（委員長）　今のご意見は、黒部駅に関しては中心市街地側に書かれている。

（委員）　資料の７ページである。黒部駅もバリアフリー化して利便性を向上させるし、それに付随して黒部駅と KOKO くろべ、海浜レクリエーション施設などを結んで回遊性を持たせてはどうかと思った。

（委員長）　地域別の書き方だと、振興計画の拠点やマスタープランのエリア分けでこのような中心市街地が書かれているのだが、その中間ぐらいのところと市街地とのつながりのようなものを持たせてはどうかというご意見だった。他に海岸部に関するご意見があればお願いする。

（委員）　２ページで、「１）人口」のところに「土地区画整理事業等の手法を活用した住環境整備の検討に向けた勉強会を行っており」とあって、私は個人的に参画している。私は生地の住民で、これは生地地区のことを指しているのだが、「勉強会を行った」ではなく、引き続き継続的に勉強会をどんどん進化させていって、最終的には地元だけでは収まらないので、道路等の基盤整備も含めた市の支援が必ず必要になる。本気で考えていかないと、人が住めないところになってしまうので、これは継続的にやっていただきたいと思う。

（委員長）　他に「６－２海岸部」についてご意見はあるか。

（委員）　２ページの「若年層を中心とした人口の流出を防ぎます」というところは、新旧対照表を見ると少し修正があって、前は若年層の流出と高齢者への対応が書いてあった。それを切り離したのはいいなと思って見ていたのだが、若年層の流出に関して商業や福祉となると、多分、高齢者を切り離したので、この商業や福祉の中身も当然変わってくるはずである。流出を防ぐために、商業や福祉というのは重要な要素ではあるが、就業の問題もあるのではないか。海岸部に限った話ではないが、結局高校を卒業してそのまま帰ってこない。一部 25 歳ぐらいで帰ってくるのだが、それは男子だ。長男へのＵターン圧力が強いので帰ってくるのだが、女子は帰ってこない。女子は、大学卒業生に言わせると就職の選択肢がない。ここは工業、第二次産業ですごく支えてもらっている大変ありがたい所なのだが、残念ながら、今の若い女性たちには魅力がない職場が多いのかもしれない。報道などでもそういうことが言われている。そこに触れないで商業や福祉だけで流出を防ぐというのは、ちょっと無理があるのではないか。これは海岸部だけの問題ではないが、もう一度その辺を考えてもらえればと思う。

それからもう１点、別枠で、先ほど土地利用の話があったが、コンパクトシティを目指すなら中心部の魅力を高めないとどうしようもないと思う。中心市街地の魅力を高めることが居住の変更につながるかと思うのだが、空き家・空き地の利用のことがあちこちに出てきていて、大変良

いシステムが出来上がっている。商工会議所にも入ってもらっていると思うが、そこにもっとてこ入れするような表現がこの中にあってもいい。例えば金融機関や設計士、工務店など、いろいろな人たちをまとめて、そこを一層促進する、サポートするような、例えばグループや会議を設置したり、そこを促進するような力というか施策を匂わせるような、表現するようなものがあれば、居住をそこに引き付ける。そうすると、無秩序な開発が抑えられるかもしれない。そことは直接結び付かないかもしれないが、もう一方の引き付ける方を強調するような表現があってもいいのかなと感じた。

（委員長）　海岸部に限らずの意見も含まれていたが、他に海岸部についてのご意見は。それでは、一旦、ここで海岸部に関しての質問・ご意見に対して、事務局から説明・回答があればお願いする。

（事務局）　まず、〇〇委員からのご質問というかご指摘の石田地区・生地地区、海岸部、この辺りの居住というかを真剣に考えていかないと、なくなるのではないかという危機感を持っておられるというのは、そのとおりかと思っている。先ほど、〇〇委員からもご紹介いただいたが、資料２ページの「１）人口」のところに少し記載しているが、これは生地地区を指していて、現在、生地地区では住民の有志の方々が主体となって、手狭な道路や昔ながらの住宅地が密集していて緊急車両が入れない場所が本当にこのままでいいのか、人が減るばかりではないか。例えば土地区画整理事業ができないか。といった話合いの場を設けておられる。行政からも職員が出席して一連の話を聞いている。地域の方々がそういった意識を持っておられるというのは、行政としても非常に心強いことで、こういったものとしっかり呼応しながら行政としてやっていかなくてはいけない部分を考え、役割分担をしっかりした形で進めていきたい。また、都市マスでの表現、もう少し具体的に記載した方がいいのではないかというご指摘だったが、表現の仕方については、事務局内で検討させていただければと思う。

次に、〇〇委員からの石田地区・黒部駅を含めた回遊性というご意見については、にぎわい創出の観点から、回遊性を持たせることも必要かと思うので、回遊性の表現の仕方は、事務局内で検討させていただきたい。

続いて、〇〇委員からの商業や福祉施設だけでは、なかなか人が留まらないのではないか。就業、特に女性については、県でも県内から若い女性がいなくなっているという危機感を持っているということも耳にしている。確かにおっしゃるとおりだと考えているので、都市マス、まちづくりの観点から、表現が商業・福祉施設だけではなく、就業、特に若い女性について、どういった形で表現できるか、事務局内で検討させていただきたい。

最後に、空き家・空き地の関係は、都市マスでは、特に用途地域、生地・石田・三日市辺りの空き家・空き地がやはり多くなっていて、その地域を中心に都市マスでは表記したところである。現在も取り組みは進めているところだが、もう少し踏み込んだ表現をしてもいいのではないかというご指摘もあったところなので、その辺りもどこまで具体的な表現ができるか、事務局内で検討させていただきたい。

（委員長）　他にご意見はあるか。海岸部だけでなく中心市街地、農村部についてでも結構である。

（委員）　各地区、海岸部にもあったが、にぎわいについては二つの視点があるのかなと思って全地区を見ていた。ロードサイド店や宅地分譲で新しく開発されている所など、やはり新たな投資・活力という点で、都市には郊外開発が必要な部分があると思う。今を生きるというか、YKKでもYKK APが住宅関係のものを生産されているということで、経済を回すためには、そういうものが短期的・即効性というか必要なのだが、一方で、まちの中のにぎわいというか、100年のまちづくりのところだが、歩いて暮らせるまちづくりという点で、車がなくても生活できるという、そこは二面性があるのかなと思っていて、にぎわいや適切な土地利用という表現をしているのではないかと考えている。この二面性について、先生から何か適切な表現があれば、ご教示いただきたいというのが１点。

もう１点は、鉄道についてで、海岸部でも生地駅の開発ということで、あいの風とやま鉄道又は若栗地区の新幹線の駅というのは幹線鉄道、全国の都市を結ぶ鉄道という位置付けで、やはり駅を中心としたにぎわいというか、歩いても行ける、又は車による利便性も必要になってくると思う。一方、富山地方鉄道は地域鉄道で、地区・自治振興会内を結ぶ鉄道。これは魚津、滑川へ行っても振興会内をこまめに結んでいる鉄道だが、この鉄道群、いろいろな鉄道を結ぶことが、例えば学校や医者、商店、又は外部から入ってくる外国人の方、観光客の多様性を確保していくことにつながるのかなと思っている。

そういった点で、この地鉄沿線地区又は海岸地区、中心市街地の駅が非常に重要になってくるのではないかと思っていて、例えば５ページの左の「（４）まちづくりの方針」の１）の３段落についても、今後の方向を見据えて、駅周辺に何か立地すれば鉄道の利用も加速されると思うので、そういった適切な土地利用が必要になってくるかと思った。

１点目について、先生から何かご教示いただけることがあれば、いただきたい。

（委員長）　先ほどの「適切な土地利用」という表記が多いことについて、何度かやりとりしてきて、私の理解では、黒部市は都市計画マスタープランの段階で、抑制なのか、応援する方向なのかを明確に書きたくないのかなと理解した。民間の開発動向を踏まえてというような説明が何度か繰り返されているので、人口が減少する中で、せっかく出てきた開発の意思を阻害したくないという気持ちは分かる。だが、それに対して立地適正化計画では、誘導することを可能にしていて、その運用をしっかりしてほしいとお願いしている。開発に対して、届出だけではなくて、出てきた開発の場所を誘導するということができるので、そこの運用をしっかりしてほしいということである。

これについては、都市計画審議会の全文が公開されているはずである。都市計画審議会の会長からも、今回、立地適正化計画を公表したが、計画を作ったらそれきり、目標は達成しなかったという報告だけ受けるのはもうやめていただこうということで、毎年きちんとロードマップを作って、都市機能の誘導の目標を立てているので、導いていけるような形にしてはどうかとお願いしている。都市計画が目標達成に向かって進捗しているかどうかを、立地適正化計画で管理して

いただけたらと思っている。この検討会は、計画を策定してしまったら終わりなのだが、都市計画審議会は運用を追いかけていくことができるので、そのように考えている。

他に意見はあるか。

（委員）　今のこの資料の、細かい内容は直接事務局に連絡するとして、全体的な話として、提案だったり、問いだったり、希望を幾つか発言させていただく。

まず、都市計画的な目線なのだが、７ページの「３）の「あわせて」という段落で、「長期未着手となっている都市計画道路については、必要に応じて」という言葉に引っかかった。「必要に応じて」というのは、どういう場合なのか。必要なければ、昭和 40 年代にできた都市計画道路をそのまま放ったらかしにするのかと返したい。この表現は、変えていただきたい。変えたからといってどうなるわけではないが、例えば「社会情勢に応じて」とか。「必要に応じて」というのは、必要でなければやらないという意味にもなるので、この表現は直していただきたいと思う。

また、８ページの新駅の部分「１）交通」のところで、これは問いだ。交通結節点の関係で、新黒部駅での「広域的な道路交通網を充実させる」のは分かったのだが、新黒部駅での「円滑な乗換えに努め」というところが引っかかった。これ以上何をする予定というか、描いておられるのか聞きたいところである。

次に９ページ、これも新駅だが、１）の「道路体系においては」という段落で、「黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について」、これは都市計画道路の話で、都市計画道路は駅辺りで止まるので、そこから海側に向かっての都市計画道路なので、「関係機関と協議しながら、延伸の必要性や」というところは、海岸部で出てきた表現と一緒なので、もし海岸部と同じ意味合いなのであれば、新駅中新線を湾岸道路の方までつなげようとすることを言っているのであれば、これはエリア外のことなので、ここで書く必要はないのではないかと思った。そうでなければ、どういった意味が入っているのか、お答えいただきたいと思う。

あと、これは提案とお願いだが、10 ページの「愛本コミュニティタクシー」というのは、おそらく、愛本地区を回る乗り合い型のタクシーだと思うが、そもそも黒部市民に折に触れて都市計画の方針を市が伝えるのであれば、いろいろなところに出てくるのだが、コミュニティタクシーとデマンドタクシーは何が違うのかとか、用語の注釈を巻末でなく、折々で入れていただきたいと思う。

他にもあって、同じ 10 ページの「６）自然・景観等」の「黒部川に架かっていた旧愛本橋（刎橋)」のこの文章自体、今もあるのなら、建造物として残っているならともかく、現存しないなら都市計画マスタープランにあえて「刎橋」と載せる必要はないのではないかと思ったのだが。

次に 12 ページ、これは言葉尻だけの話だが、概況については確認が取れたが、「３）観光・交流」の最後のところ、「ワーケーションなどで市内を訪れたテレワーカーが快適に仕事ができる場所を提供します」と方針になっているが、既に提供しているのであれば「提供しています」という語尾にするべきではないか。概況として書くのであれば、そういう表現にするべきではないかと思った。

次に、同じ 12 ページに、前沢・田家地区などでデマンドタクシーの利用者数が減少傾向を示しているとあるが、減少の原因がお分かりであれば、伺いたい。

最後に 13 ページ、これも注釈の関係だが、「（４）まちづくりの方針」の２）の最後の段落に「ノッカル」と唐突に出てくる。これは、黒部市民でも分からないと思う。「ノッカル」は、正式には朝日町での取組で、朝日町のことを言っておられるのだろうと思うが、これも注釈を入れていただきたい。

（委員長）　最初の長期未着手となっている都市計画道路に関しては、修正をお願いしたいということだが、他は質問でそれに答えていただくのと、用語の注釈でコミュニティタクシーとデマンドタクシー。振興計画のときにも、確か同じような質問があって、振興計画には注釈を入れたので、それを参考に注釈を入れていただきたい。他のところについて、繰り返さないが事務局から今の段階で説明できることがあればお願いする。

（事務局）　一つずつ回答させていただきたいと思う。まず、７ページ右側の下から３段落「長期未着手となっている都市計画道路については、必要に応じて」というところ、これは委員のご指摘のとおり、この表現は良くないと思うので、「社会情勢」というふうな形にするのか、表現を見直させていただきたい。

次に、８ページ右側の「１）交通」の本文に「新黒部駅での円滑な乗換えに努め、各地域へのアクセス性の向上を図ることが必要です」ということで、現在、新黒部駅は十分接続されていて、これ以上何があるのかということであったが、おっしゃるとおり富山地方鉄道の新黒部駅は非常に多く接続していると市として認識しているので、この表現は見直しをさせていただきたい。

続いて、９ページの「（４）まちづくり方針」の１）２段落の１行目の後半部分、「新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性」、これもご指摘のとおり、これは海岸部への延伸を想定して記載しているので、ここの表現は削除したい。

続いて、10 ページの「愛本コミュニティタクシー」の部分については、注釈をしっかり付けたいと思う。同じく、10 ページ右側の「旧愛本橋（刎橋）」についても、いかにも現存しているような表現になっているので、ここも修正させていただきく。

次に、12 ページ左側の「３）観光・交流」のテレワークスペースについて、現況であるにもかかわらず、方針が記載されているということで、これについては今後こういったものを設置していくという方針なので、現況からは削除して方針の方に記載したいと思う。

続いて、デマンドタクシーの利用者数減少の原因については、交通事業者の話によると、定期的に使っているヘビーユーザーといわれる方が、施設に行かれたのか、利用されなくなったということで、１人の方が使わなくなると大きく変わってくるので、そういった状況が一つある。それと、最近、移動販売車がいろいろなところに定期的に行くようになっているようで、そういったものも影響があるかと考えている。

最後に、13 ページの「ノッカル」というカタカナの言葉が唐突に出てくるということで、これもおっしゃるとおりで注釈を入れたいと思う。ちなみに、「ノッカル」というのは、近隣の朝日町が実施している事業で、地域の移動課題を解決するために、スズキ株式会社と株式会社博報堂が開発した地域の住民で移動を支え合うサービスで、既存のバス事業者など事業者が運行するのではなく、地域住民の力を借りて地域の人が地域の人を運ぶシステムのことを「ノッカル」と言

っていて、商標登録されている。こういったものの導入も検討していく必要があるのではないかということである。ここもしっかり注釈を入れたい。

（委員長）　予定していた時間をだいぶ過ぎてしまっているのだが、活発なご意見をいただいているので、ご意見があれば、もう少し続けたいと思うが。

（委員）　全体的な部分として、特に９ページの方針が書いてあるところの語尾が、「努めます」「図ります」「進めます」「推進します」「促進します」というのは、それぞれ立ち位置や方針、状況に合わせて言葉を選んでいるという理解でよいのかというのが一つと、あと個別の話でいくと、５ページ左側の真ん中に「加えて・・・まちづくりへの活用を検討します」とあるが、私の認識では既に KOKO くろべ等で収穫物の直売をしているので、「検討します」というところまで付けて表現するのはどうかと思った。

（委員長）　１点目の言葉の言い回しについては、前回も「図ります」と「努めます」の使い分けについて配慮していただいたところだが、改めて「促進します」という表現についてと２点目について、事務局から回答をお願いしたい。

（事務局）　まず一つ目の「図ります」「努めます」「推進します」という表現についてだが、「推進します」というのは、強く推し進めていこうとするものであり、「努めます」というのは、努力していこうというような表現である。「促進」は、市が直接やるのではなくて、他の機関や団体に促して進めるという意味合いになる。
　それから、５ページの「収穫物の直売を推進し」というのは、現在はまちづくりという観点が非常に薄い部分もあるのかなということで、こういったものがまちづくりにどう活用していけるのか、道の駅 KOKO くろべを起点としたものを少し検討していきたいという思いで、方針にこのように記載したところである。

（委員長）　よろしいか。他にご意見、ご質問があれば。

（委員）　駅周辺のことで、８ページの「５）土地利用」とか「６）自然・景観等」の「駅近接地の開発圧力」とは、どういう捉え方をしておられるのか。開発してほしいのか、してもらいたくないのか。圧力というのは、プレッシャーをかけてくるということなので、これは表現があまりにもおかしいのではないかと思う。
　それと、道路の延線について見直すと言われたが、今、新幹線できの宇奈月側に向けて広い道を造っている。方針図の４ページには、駅の山側、宇奈月側の方は商業・業務地区として色塗りされている。延伸をしないのなら、下の方に色塗りを持っていってもよいし、どちらかといえば下の方が開発しやすい、業者を呼びやすいと思う。それと、市の構想というか、未来図が自分には見えてこない。業者任せに感じる。例えば工業団地は、税金を安くしてでも企業を引っ張ってこようという動きがあるが、この文章を見ると、開発したい人は来てくれ、でも規制は厳しい、

圧力には負けないというふうに捉えられてもおかしくないと思う。
それと、全体的に横文字の難しい言葉がたくさんあり過ぎて、なかなか理解できない。注釈ばかりになっていくような気もするので、もう少し柔らかに表現にしていただきたいと思う。

（委員長）　都市計画マスタープランでしか決められないことが土地利用の方針なので、立地適正化計画の中でも、開発圧力の話は何度かさせていただいているが、事務局の方で何か説明できるか。

（事務局）　まず、８ページ左側の「６）土地利用」のところの開発圧力という表現。確かに圧力という表現は、少し強いかと思うので、表現を事務局内で検討させていただきたい。
続いて、９ページの１）の２段落、真ん中辺りの都市計画道路新駅中新線。これは、先ほど延伸の必要性ということで、〇〇委員からのご質問に対して海岸部へのというふうなご説明をさせていただいた。この新駅中新線については、山側の方に道路を延伸する計画を持っていて、事業を進めているところである。そういったことがあるので、ここも延伸の必要性も含めた表現にするのかどうか、事務局内で改めて検討させていただきたい。
それと、市として新幹線駅周辺の開発をしたいのか、したくないのか。これについては、全体構想や都市計画審議会でも質問・ご意見をいただいたところで、繰り返しの回答になるかもしれないが、これまで議会答弁等においても、人口が４万人を切っている都市の中で中心市街地、まちを二つは整備しないということで進めているところである。しかしながら、８ページの「３）観光・交流」のところに記載しているが、決して商業施設、業務施設が開発されることを否定したり、拒むものではない。当然、黒部宇奈月温泉駅に目を付けて、進出してこようとする民間事業者に対しては、市としてしっかりとした対応をしていきたいと思っている。そういった意味合いを込めて、商業・業務等の機能については、市としてしっかりと備える必要があるという思いがあり、こういった表現になっているということである。
最後に、横文字、カタカナの文字が多くて都市マス全体が分かりづらいというご指摘については、分かりやすい表現にしたいと思う。先ほど注釈の話もあったが、市民の皆さんがより分かりやすい表現の仕方を心掛けていきたい。

（委員長）　他にご質問、ご意見は。

（委員）　９ページの、県東部の玄関口にふさわしい広域的な観光・交通の拠点となる地域として、黒部宇奈月温泉駅が注目されるということなのだが、黒部市だけが関与する問題ではなくて、新川地区全体の駅なので、それにふさわしいような駅環境を整えるべきだと思う。黒部市単独で駅周辺を整備するのではなくて、新川地区の駅として、各市町村長の皆さんと一度話し合ってもらいたい。
十年近く経つが、変わったのは駐車場が有料になったことだけである。あとは何も変わっていない。全国の新幹線駅を見ても、一番みすぼらしい駅ではないか。地域住民として非常に情けないと思っている。新川地区の市町村の皆さんと一度話し合ってもらいたい。

（委員長）　黒部宇奈月温泉駅について、広域の観点で議論しているものがあれば、それを踏まえた書きぶりにというようなご意見だったかと思うが、今の時点で事務局から説明されることはあるか。

（事務局）　お答えになるかどうか分からないが、新幹線の駅周辺、今回は近郊といった形で記載させていただいていて、〇〇委員がおっしゃるとおり様々なご意見をいただいていることは事実である。また、黒部市単独の駅ではなく、新川地区全体として捉えるべきではないかというご意見をいただいた。機会があるごとに、近隣の自治体の皆さん、いろいろつながりがあるので、その中で議論、意見交換などできないか考えてみたいと思う。

（委員長）　他に特にご意見、ご質問がなければ、時間も過ぎているので、今日のところはこれまでとさせていただきたいと思うが、意見を言っておきたいという方がまだいらっしゃれば。よろしいか。それでは、今日は都市計画マスタープラン地域別構想に関して採決をするのか。

（事務局）　多くのご意見をいただき、事務局内で検討して修正したいと思うので、引き続きご協議いただく。という形でお願いしたいと思う。

（委員長）　次回、第４回もこの地域別構想について時間を取っていただけるということか。

（事務局）　次回については、全てではないが、前回の全体構想を含めた全体的なことを改めて皆さんにご協議いただきたいと考えている。また、今回ご指摘いただいたご意見に対して事務局がどういった考えなのか、どういった対応を取ったのかということも含めてご議論いただければと思う。次回は、いただいた意見への返答もお示ししたい。

（委員長）　それでは、今日出していただいたご意見の他にもまだ言い足りない点があれば、メモ書きでもメールでも何でもご意見を出していただいて、それをまとめて次回、対応をお示ししてから議論を始める、そのように進めさせていただくことでよいか。
　それでは、本日の協議事項は、時間がだいぶ過ぎてしまったが、以上としたい。私の役割はこれで終えさせていただく。

５　その他

６　閉会